

北のとびら

vol. 112

平成29年8月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

特集

マームジブニー

10th Anniversary Tour

札幌公演

藤田貴大インタビュー

この人に注目

本田 大河

堀川 千夏

街歩きアート

森の木々から、

新たな価値を芽吹かせる

移住者たち

「下川町」

エッセイ

長嶋 有

表紙作家の紹介

齋藤 周



インタビュー

特集

マームとジプシー
10th Anniversary Tour
札幌公演

M U M & G Y P S Y

藤田貴大



photo: 細野晋司

T a k a h i r o F u j i t a

藤田 貴大
(マームとジプシー主宰・劇作家・演出家)

1985年北海道伊達市生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科にて演劇を専攻。2007年にマームとジプシーを旗揚げ。

象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。『かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞、『cocoon』(再演)で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。

2017年7月～9月、10th Anniversary Tourを全国6都市(埼玉・上田・札幌・北九州・豊橋・伊丹)にて開催。



速度、展開、他ジャンルとのコラボ。
「演劇はここまで来た」
ということ伝えたい。
北海道の人と、過去の自分に。

18歳まで北海道伊達市で育ち、演劇を志して上京。重要なシーンやセリフを反復させる「リフレイン」、視点を切り替えてみせる映画的手法、漫画家やファッションデザイナーとのコラボなどで新しい領域を切り拓き、日本の現代演劇をリードする存在となった劇作家・演出家の藤田貴大さん。主宰する演劇集団「マームとジプシー」が10周年を迎える今年、初めての札幌公演に向けての思いをうかがいました。

あらためて出会う「札幌」

札幌は、高校生までの僕にとって親戚の住む街、物や服に溢れていて、まだ知り得ない大人の風俗が垣間見える街でした。伊達では、演劇を教えてくれた恩師がいることもあって何度か公演を行いました。札幌には心理的な構えがあり、公演には慎重になっていました。けれど、福島県の中高生と舞台を創作するプロジェクトで、音楽家の大友良英さんと一緒に考えが変わったんです。『タイムライン』という作品を創る過程で、大友さんが心理的な葛藤を越えて育った福島に関わっている姿を見て「自分も北海道ときちんと向き合うべきだ」と感じ、「札幌でやる時期が来た」と思うことができました。実際に札幌に関わってみると、都会的ではあるけど、どんだん人を紹介してくれる気安さなどは伊達と同じものを感じますね。公演後は少し滞在する予定なので、あらためて札幌を知る機会を楽しみにしています。

観客が演目を選べる公演

複数の作品を一挙に上演するのは、僕らとしても初めての試みです。これまで各地でツアーをしてきて、1作品だけを上演することに違和感を持っていました。一つの作品で自分のことを全部は描けてはいないので、多くの作品から色々な面を見てほしい、という思いがあります。また、東京では四六時中至る所で演劇をやっている、映画と同じように作品を選んで観ることができません。けれど地方では、年に何回か機会があるだけで選択肢が少な



photo: 橋本倫史



photo: 橋本倫史



photo: 三田村亮

マームとジプシー 10th Anniversary Tour
札幌公演

公演日:平成29年8月16日(水)、19日(土)、20日(日)
会場:札幌市教育文化会館
大ホール 特設ステージ、リハーサル室A
(札幌市中央区北1条西13丁目)

- I 『AAA かえりの合図、まった食卓、そこ、きつと』
第56回岸田戯曲賞を受賞した『かえりの合図、まった食卓、そこ、きつと、しおふる世界。』のうち、『帰りの合図』『待って食卓。』(2011)を軸に『ワタンち、通過。のち、ダイジェスト。』(2012)のモチーフを加え、「家族・家」をテーマに再編集した作品。
- II 『夜、さよなら 夜が明けないうま、朝 Kと真夜中のほとりで』
『夜、さよなら』(2006)、『夜が明けないうま、朝』(2009)、代表作『Kと真夜中のほとりで』(2011)、『夜・不在』をモチーフに描いた3作を再編集した作品。
- III 『クラゲノココロ モモノパノラマ ヒダリメノヒダ』
『クラゲノココロ』(2007)、『モモノパノラマ』(2013)、『ヒダリメノヒダ』(2015)の「動物・人体」をテーマにした3作を並べ、1つの時間に再編集した作品。
- IV 『あっこのはなし』
マームとジプシー常連メンバーと、コミカルに30代の女性をテーマに描いた作品(2016)。

※チケットは全ステージ完売しました

く、僕はそれが悔しかった。だから、全部観てくれたらもちろん嬉しいけど、観客が気になった作品を選ぶという出会い方もできるようなと考えました。

演劇という、記憶の中にしか残らないものに2000円〜4000円も使うというのは、ちよつとスゴイことです。今は家においても最新の映画やドラマを見ることができ、服や本を買うこともできる。外に出てお金を使ってもらうためには、それだけのものを示さなくてはなりません。

僕の作品はほとんど素舞台です。回転舞台を置けば家族の、シルバークを置けば動物の、アンティークが配置されたら夜のモチーフになる。4作品続けての上演では、ちよつとした工夫で様々なモチーフを描いて、しかもこの速度で舞台が変化すると、ということを見てほしいですね。ファッションデザイナーが作った衣装や、演目ごとに異なるミュージシャンの音楽も、それだけで楽しむこともできる仕掛けです。

演劇の速度と展開の多彩さ、多様なジャンルを巻き込めて、それをこの値段で観ることができる、とい

す。全部を観た人は、巨大なドラマを観ているような不思議な感覚になるんじゃないかな。

再演というけど、僕の場合はかなり変えてしまいます。モチーフが同じでもそれに対しての問題意識は年々変わるから。例えば「夜」という言葉には、今の時代の行き詰まった状況をイメージさせるものがある、創られた当時とは違う「夜」になっています。

演劇は現在の鏡になりやすいジャンルです。「さま」「こ」「こ」で言葉が発するわけですから。創った当時の空気感を残すのは重要だけど、2017年現在の今が刻まれている。

10周年から先については、蜷川幸雄さんという50歳上の同業者に出会い、彼が亡くなったことで、演劇を丁寧創っていくことを背負わされた気がしています。蜷川さんとは違うやり方で、演劇は色々な可能性のあるジャンルだということを見せ続けることが僕の役割だ、と。

北海道で育った時間、あの頃の鬱屈とした気持ち忘れずに、いつでも18歳の僕に見えるつもりで、新しい関係性を築きつつ作品を創っていきたくて考えています。

『あっこのはなし』は、30代の女性の悩みをコミカルに描いた作品です。32歳の僕は今こんなことを考えています、という自己紹介のようなつもりで演目に加えました。

それ以外の作品は北海道で過ごした時代の記憶がテーマになっています。「夜・不在」「動物・人体」「家族・家」をモチーフにした9つの作品を集めて、それぞれを再編集したものです。

3作品を並べると、たぐさんのコンプレックスを抱えていた10代の頃の心象風景、伊達という街のイメージが立ち上がっていく感覚があります。

「演劇はここまで来た」ということを、北海道だからこそ見せたい、若い演劇人に伝えたいですね。

いい演劇を創るために必要なのは、才能とかでなく、どれだけ見たか、聞いたか、やったか。その積み重ねでしかないと考えています。

時代の「今」を刻む再演

M U M & G Y P S Y 10th Anniversary Tour

堀川 千夏

Chinatsu Horikawa

この **人** に注目

【ダンサー】

本田 大河

Taiga Honda



「札幌に活動ベースとなるコンテンポラリーダンスのカンパニーを作ることが夢」。5歳から上原由美子バレエ教室で学んできた堀川千夏さんは、中学2年生のときに受けたワークショップがきっかけで、コンテンポラリーダンスに夢中になりました。講師は国内外で活躍するダンサー・振付家の平原慎太郎さん。大人に交ざって、自分で振付を考えて踊る新鮮さと「全く動けない、何をどうしていいのかわからない」という強烈な体験から「もっと踊りたい」という気持ちに火が付いたと言います。

以降、バレエと平行して、札幌を拠点に活動するダンサー・振付家の渡部倫子さんにコンテンポラリーダンスを師事、作品に出演。また、平原さんや柳本雅寛さんなど、道外のダンサー・振付家が札幌で行うワークショップに積極的に参加してきました。

2015年の春、尊敬する平原さんが主宰するOrganWorksのアンダースタディ(代役)として声をかけてもらったことから、高校卒業と同時に東京と札幌を行き来しての活動を開始。平原さんの作品のほか、ワークショップへの参加をきっかけにスペインの振付家カルメン・ワーナーやタティアナ・チョロトの作品への出演も果たしました。

札幌では2015年から毎年、真下百百子主宰のバレエコンサート「Stars&Dreams」において自作のソロ作品を発表。また、MoB+stage projectにてミュージカル作品の振付も手がけています。

「ダンサーの内側だけで完結していない、観客に何かを伝えようとしている作品が好き」と語る堀川さん。現在はダンサーとしての身体の可能性を探求しつつ、より多くの振付家と出会ってその手法を学ぶことに力を注いでいます。



高校生ながら、ミュージカルとダンスという異なった領域で舞台経験を積んできた本田大河さん。2歳からダンスを始め、8歳で「ALL JAPAN SUPER KIDS DANCE CONTEST」に参加し、北海道代表として3年連続で全国大会に出場したほか、多くのダンスコンテストで優勝した経験を持っています。また、ダンススタジオ舞人や一般社団法人北海道ダンスプロジェクト(HDP)の公演に多数出演し、ジャズダンス、ヒップホップダンス、ロックダンス、ポップダンス、アクロバットと、様々なジャンルを学んできました。

ミュージカルとの出会いは、スタジオ代表の宏瀬賢二先生の勧めで劇団四季『ライオンキング』札幌公演のオーディションを受けたこと。見事合格して札幌公演初代ヤングシンバ役を演じ、「全てにおいて妥協することのない俳

優さんの姿勢を通して、プロの厳しさを知り、舞台上における役者の存在意義を学んだ」といいます。

コンテンポラリーダンスを踊り始めたのは、若手振付家・ダンサーの育成とコンテンポラリーダンスの普及を目指して2011年から始まったHDP公演『新たなる挑戦(New Challenge)』への出演がきっかけ。「先生の振付で踊ってきたので、作品を創作するのに苦労した」といいますが、以降、2013年「踊りにいくぜ!!」札幌公演などでコンテンポラリーダンスの創作や出演にチャレンジしてきました。「分かりやすさを重視するミュージカルと、分かりにくさのあるコンテンポラリーを知ることで互いの領域に活かされた」という本田さん。舞台人として幅広く活躍するために「劇団四季に入って、踊りだけでなく、演技や歌のスキルを学びたい」と明確な目標を掲げています。

◎公演予定

北海道ダンスプロジェクト公演 「我楽多一(GARAKUTA-ICHI)にいらっしやい!!」

日時:8月29日(火) 18:00開演 18:30開演 会場:ニトリ文化ホール 問い合わせ:(一社)北海道ダンスプロジェクト事務局 ☎011-221-8055

森の木々から、 新たな価値を芽吹かせる移住者たち [下川町]

森林の占める割合がまちの約9割を占める下川町は、豊かな森林資源と、古くは銅山と金山で栄えた歴史があります。50年以上前から循環型森林経営による持続可能な地域づくりを行っており、その先駆的な取り組みによって、2011年には国から「環境未来都市」の選定を受けています。また、森を中心とした活動に共感した木工作家などの個性的な移住者も増えています。



下川発・森のある暮らしの拠点

NPO法人 森の生活

森林組合に関わる移住者が中心となり、2005年にNPOとして設立。現メンバーも全員移住者で、森林体験を通じた環境教育や森林保全活動、地元の木材での商品開発など、暮らしの中で地域の森を活用する仕組みづくりを行っています。

2015年からは「しもかわ広葉樹」の木材流通事業に着手。針葉樹のカラマツやトドマツは建材として需要がありますが、国産の広葉樹はミズナラやイタヤカエデ、シラカバなど、多種で少量ずつしか採れないため採算が合わず、紙の原料としてチップになってしまうものがほとんどです。森の生活では、家具など木工用材としても活用できるよう、地元協力のもと広葉樹の製材を行い、独自に低温乾燥を行っています。

この取り組みに注目し、下川へ移住した木工家や職人もいます。森の生活で木材の流通事業を担当する谷目基（たにめ・もととき）さんもそのひとり。世界に数名しかいない手回しオルガンの職人で、函館から移住しました。「作り手は、地元の木でものづくりをしたいと思っています。その木がどんな山で育ち、どんな人の手に渡り、どんな人が使うのか、見渡すことができるのは理想的な環境です」。ほとんどが輸入材という広葉樹が、国産の、しかも下川産とはっきりわかる木材を使えるのは、「しもかわ広葉樹」の事業あってのことでしょう。また、谷目さんは森の生活が商品開発したテーブルなど家具の製造も行い、休日は職人として手回しオルガンを製作しています。このように、森の生活の仕事に携わりつつ、自分の活動ができる環境も整っています。

そのほか、森の生活では、伐採されたトドマツの枝葉が原料のエッセンシャルオイルなど、町内で生まれた製品を「森の産地直売所」としてwebなどで販売。下川発のものづくりによる、「森のある暮らし」を提案する重要な拠点となっています。

●上川郡下川町南町477 (事務所)
☎01655-4-2606 (平日9:00~17:00)
morinoseikatsu.org

「コモレビ」に展示された下川木材のクラフト



事務所のある美桑（みくわ）が丘も森林体験の場



製材されたさまざまな広葉樹。皮付きのものもある



「食べ物のように、木の産地直送をしたい」と谷目さん



下：管理する宿泊施設「もりのなかヨックル」に作品を置く計画も



町民がワークショップに参加し、100枚以上のTシャツで春の森が完成



椅子などが置かれたフリースペースは誰でも利用できる



企画の仕掛け人・観光協会の高松さん（東京から移住）

まちを元気にする春の森

まちおこしセンター「コモレビ」

2016年12月、まちの中心地活性化を目的に、情報発信基地としてオープン。カラマツ、トドマツ、ミズナラなど地元の木材と、下川町のシンボルカラーである春の芽吹き色のグリーン色が使われた心地よい空間が広がっています。

町では4年前から、飲食店やバスターミナルに、アーティストの作品を1週間にわたり展示する「まちなかアートフェス」を行ってきました。今年3月、コモレビを会場にスピンオフ企画「春の森Tシャツミュージアム」を初開催。100枚以上もの緑のTシャツに絵を描き、会場に吊して森をつくる、というもので、アーティストや町民も参加しました。「森が誇るべき宝だということを、地元の人にこそ気づいてほしい」と、しもかわ観光協会の高松峰成（たかまつ・ほうせい）さん。Tシャツを着た町民がまちを歩いたとき、まちなかアートとして完成するのだとか。待望の完成はもうすぐです。

●上川郡下川町共栄町1-1 ☎01655-4-2718
www.shimokawa-time.net (しもかわ観光協会)

森で生まれた個性を形に クラフト・蒼

時計の端にちょこんとまった小鳥。尾に触れると、上下にゆらゆら動きます。木工家・白田健二さんは、こうしたかわいらしい小物のほか、野趣あふれる木の器も制作しています。



木の凹凸や皮を残して器にする

もともと東川町で制作していましたが、樹齢100年以上の立派な広葉樹でもチップにされることを知り、器づくりを思い立ったという白田さん。下川で広葉樹の取り組みが始まったのを機に移住しました。丸太から彫り出すように作る器は、太古の土器のようにも見えます。「木の個性に合わせるので、同じ形はひとつもありません。材料の木は直接見て選んでいます」

また、町内の木工芸以外の作り手との連携や、写真家としても活動中。木工にとどまらない下川のものづくりの魅力を、全国へ発信しています。

●上川郡下川町緑町 下川町木工芸センター内
☎01655-4-3835 www14.plala.or.jp/craft_so/

森に寄り添う小さな工房 森のキツネ

林業に携わる人々のまちだった一の橋地区の森にたたずむ、小さな古い建物。森を管理し、丸太を販売していた会社の事務所跡（林産会社）が、木工家・河野文孝（かわの・やすゆき）さんの工房です。河野さんは道北各地で家具職人として働き、今年1月に下川へ移住したばかり。「ここだったら完全に自分の世界に入ってもいいので、できると思いました。それに、産地がはっきりわかる広葉樹の木材の取り組みにも興味を持ちました」と話します。



二股のテーブルは「コモレビ」に展示中

二股の幹の形を生かしたテーブルは、自ら選んだ広葉樹の丸太から制作しました。自然が作った個性的な形は、製材で整えられたものにはない面白さがあります。「山の都合に合わせる」という理想のものづくりが、森と生きた人々の記憶を刻んだ場所から始まりました。



一の橋の森に寄り添うように建つ工房

●上川郡下川町一の橋615
メール konkon@morino-kitune.com morino-kitune.com

Column

豪快に刻む森のアート EZOCUP

チェーンソーアートマスターズ コンペティション

道内唯一、国内最高峰のチェーンソーによるカービング（彫刻）の国際大会が、夏に下川町で開催されています。「チェーンソーアート」と呼ばれ、欧米ではプロもいるほど盛ん。大会では、国内外から招待されたアーティストが、直径50センチ以上のトドマツの丸太から3日間かけて作品を彫りあげます。チェーンソーが唸りをあげ、木屑が飛び散るダイナミックなアートは圧巻の一言。そして、1本の木を作品として完成させる繊細な技に感動するはずですよ。



チェーンソーを5〜7台使い分けて制作する



2016年優勝作品「生命の川」などは公園に展示

下川在住で、国内のチェーンソーアートの第一人者・木霊光（こだま・ひかる）さんをきっかけに、「森林のまちでしかできない大会を」と始めてから今年で7年目。現在は「森ジャム」というイベントのひとつとして開催され、多くの人の目を驚かせています。

●下川町役場 森林総合産業推進課内 EZOCUP実行委員会 ☎01655-4-2511
会期 2017年7月7日〜9日 ＊来年度の日程は要問合せ
会場 上川郡下川町西町100 桜ヶ丘公園 ガーデニングフォレスト「フレベ」 特設会場
入場料 無料 morijam.tumblr.com (森ジャムHP)

表紙作家の紹介



「楽園」

齋藤周 美術家

Shu Saito

1968年札幌市生まれ/札幌市在住
北海道教育大学大学院美術教育専修 修士課程修了
現在、北海道札幌旭丘高等学校美術教諭
HP <http://shusaito.com>

[主な個展]

- 2017年 「片鱗」 context (札幌)
- 2016年 「合図」 Clark Gallery + SHIFT (札幌)
- 2015年 「かたちの心地」 Clark Gallery + SHIFT (札幌)
- 2014年 「日々の形状」 TEMPORARY SPACE (札幌)
- 2013年 「昨日からの眺め」 CROSS HOTEL札幌
- 2012年 「the round dance of light」 cholon札幌本店
- 2011年 「内にある遙か」 neutron tokyo (東京)
「これから下りていこう」 TEMPORARY SPACE (札幌)
- 2010年 「ひとときのこと」 脇田美術館 (軽井沢)
- 2009年 「春を兆す日」 neutron tokyo (東京)
- 2008年 「ほのかなあかりが」 森岡書店 (東京)
「本当に望んでいること」
現代HEGHTS Gallery Den & ST (東京)
- 2007年 「それでも優しい風は吹く」 Gallery neutron (京都)
「いろんなことが想いにたらない」 CAI現代芸術研究所 (札幌)
- 2006年 「河は流れている」 SOSO CAFE (札幌)
「かわること」 Gallery neutron (京都)
- 2005年 「回復の壁」 Free Space PRAHA (札幌)
「Doe lebendigen Wande」 Joachim Gallery (ベルリン)
- 2003年 「細かい情感のイメージ」 Free Space PRAHA (札幌)
「横移動の時間軸」 Cappybara Café (石狩)
- 2002年 「多面に点在していくこと」 Free Space PRAHA (札幌)
「NEXT STEP」 Gallery門馬 ANNEX (札幌)

[主なグループ展]

- 2012年 「齋藤洪人 齋藤周 親子展」
札幌時計台ギャラリーA室
「意識の形」 Plus1 meets Daegu Art space PURL (大邱 韓国)

- 2011年 「札幌美術展 Living Art -日常- やさしさはいつもそばに」
札幌芸術の森美術館
- 2010年 PLUS1「This Place」本郷新記念札幌彫刻美術館
- 2009年 「水脈の肖像09-日本・韓国・2つの今日」北海道立近代美術館 (札幌)
「EMERGING DIRECTORS' ART FAIR "ULTRA002"」
スパイラルホール3F (東京)
「NORTH TO NORTH PULS 1 in Vietnam」
16-Ngo Quyen-Hanoi (ハノイ)
- 2008年 ART BOX 2008 インスタレーション 札幌芸術の森野外ステージ
「はしご展」北広島芸術文化ホール
「久野志乃と齋藤周展～かるいからだ」茶廊法邑 (札幌)
- 2007年 「さっぽろアートステージ2007 500m美術館」札幌地下街通路
「ANA MEETS ARTS vol6」羽田国際空港
ANA北ビアラウンジsignet (東京)
- 2006年 「武田浩志/齋藤周PISTOL2」札幌時計台ギャラリーA室
「水脈の肖像06-日本・韓国・ドイツの今日展」
北海道立近代美術館 (札幌)
- 2005年 「A・MUSE・LAND 2005 むすんで ひらいて」
北海道立近代美術館 (札幌)
- 2004年 「札幌の美術2004 20人の試み展」札幌市民ギャラリー
「アートとの対話～5つの記憶」紋別市立博物館
- 2003年 「Library Project」仙台メディアテーク
「福・北・北美術往来」モダンアートバンクWALD (福岡)

●受賞

- 2004年 FASHON DRAWING BIENNALE 2004 入選 脇田美術館 (軽井沢)
- 2003年 HEARTLAND KARUIZAWA DRAWING BIENNALE 2003 入選
脇田美術館 (軽井沢)

◎北海道文化財団アートスペース企画展 vol.33

齋藤周 個展「四方を見遡る」
会 期：平成29年8月7日(月)～10月31日(火) 9:00～17:00
休館日：土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。
会 場：北海道文化財団アートスペース (札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)
入場料：無料



「今此処に在る」



エッセイ①
文 | 長嶋有 Yu Nagashima

ネピアの団地

帰省すると、帰りに必ず「ネピアの団地」を撮影する。
白老駅から苫小牧駅に着くころ、電車が速度を落とす少し前、左手に「ネピアの団地」はある。建物全体がネピアテイッシュの箱の柄にペイントされているのだ。
一度撮ってしまえば、あと別に（建物は姿を変えないので）何度も撮影する必要はないのだが、苫小牧駅が近づくと、ネピアの団地撮らなければ！と焦って窓際に体を寄せてしまう。
画像をツイートするとそのたびに必ず「バズる（人気が出る）」。皆、ネピアの団地が大好きだ。
四階建てで入り口が二か所ある、ひと昔前の団地っぽい団地だ。テイッシュも団地も四角い。縦横比もそういえば近いから、あの箱の柄にしたら、超巨大テイッシュに見える。面白いアイデアだけど、日本中の誰もやらなかった。製紙工場のおひざ元でなければ、実現しなかったろう。

車で近づいて友達と写真を撮りまわったりもしたが、付近は北海道の住宅街に固有の、無人に近い静けさで、地元の人少しもそれを面白がっていない感じだ。
でも、それがいい。大手広告代理店が参画して、町おこしだとか話題作りを周到にしかけて出来たものではない、いわば一企業のただの冗談だ。それが無造作にどんと置いてある。周囲の景色も田舎の静けさと殺風景さをたたえたままだからこそ、巨大テイッシュが置いてあることに面白みが生じるのだ。
聞けば製紙会社の独身寮だそう。いい会社じゃないか。



長嶋有 (ながしま ゆう) 作家

1972年生まれ。『猛スピードで母は』で第126回芥川賞、『夕子ちゃんの近道』で第1回大江健三郎賞、『三の隣は五号室』で第52回谷崎潤一郎賞を受賞。著作に『もう生まれたくない』『フキンシンちゃん』『観なかった映画』など。

※次号のエッセイも長嶋有さんが担当します

財団事業インフォメーション (平成29年8月～平成29年10月)

若手芸術家発表事業

●デュオ トロイメライ 標準公演

日時：平成29年9月10日(日) 14:30開演(14:00開場) ※予定
会場：標準町生涯学習センター・ロビー
(標準町北1条西5条目5番3号)

入場料：無料
問い合わせ：標準町教育委員会 ☎0153-82-2900

文化の宅配便事業

●Les pommes^{レ・ポムポム} 木古内公演

日時：平成29年10月24日(火) 18:30開演(18:00開場)
会場：木古内町中央公民館(上磯郡木古内町字木古内179-1)
入場料：無料

問い合わせ：木古内町中央公民館 ☎01392-2-2224

まちの文化創造事業

〈シアタープログラム〉

●第27回北海道演劇祭inえべつ

日時：平成29年9月15日(金)～18日(月・祝)
会場：ドラマシアターどもIV(江別市2条2丁目7-1)
アートスペース外輪船(江別市2条1丁目)

入場料：大人(通し券、2回券、1回券)、子ども(通し券、1回券)
未就学児(無料)
問い合わせ：ドラマシアターどもIV ☎011-384-4011

〈ギャラリープログラム〉

●第100回記念 鋼美展

期日：平成29年9月12日(火)～17日(日)
会場：釧路市立美術館
(釧路市幣舞町4番28号 釧路市生涯学習センター内)

入場料：前売・当日 300円(高校生以下無料)
問い合わせ：釧路美術協会(中川) ☎0154-65-8388

アートシアター鑑賞事業

●札幌座「空知る夏の幻想曲」

○江別公演
日時：平成29年9月28日(木) 19:00開演(18:30開場)
会場：大麻公民館・えぼあホール(江別市大麻町26-7)
入場料：一般2,000円 学生1,000円
問い合わせ：(社)わくわくピース総合型クラブ ☎090-8637-8461(平田)

○帯広公演
日時：平成29年 9月30日(土) 18:00開演(17:30開場)
10月1日(日) 11:00開演(10:30開場)
会場：北のれんが・古柏堂(帯広市東2条南12丁目2-1)
入場料：一般2,500円 学生1,500円
問い合わせ：NPO法人北のれんがを愛する人々 ☎080-1871-5357(米谷)

○石狩公演
日時：平成29年10月6日(金) 19:00開演(18:30開場)
会場：Art Warm(石狩市花畔1条1丁目56)
入場料：一般2,000円 学生500円
問い合わせ：NPO法人アートウォーム ☎0133-64-4664

○岩見沢公演
日時：平成29年10月24日(火) 19:00開演(18:30開場)
会場：岩見沢市文化センター(岩見沢市9条西4丁目1番地1)
入場料：一般2,000円 学生1,000円
問い合わせ：NPO法人はまなすアート&ミュージック・プロダクション
☎0126-22-4235

●東京プラススタイル「ジブリ・パーティー2017」

○岩内公演
日時：平成29年8月20日(日) 14:00開演(13:30開場)
会場：岩内地方文化センター(岩内町字万代51-7)
入場料：一般1,000円 学生500円
問い合わせ：岩内町教育委員会 ☎0135-67-7099

○和寒公演
日時：平成29年9月15日(金) 18:30開演(18:00開場)
会場：和寒町公民館(和寒町字北町61番地)
入場料：一般1,500円 学生800円
問い合わせ：和寒町芸術文化公演会実行委員会 ☎0165-32-2477

○幌延公演
日時：平成29年10月6日(金) 19:00開演(18:30開場)
会場：幌延町深地層研究センター(幌延町字北進432番地2)
入場料：一般1,000円 学生500円
問い合わせ：幌延町教育委員会 ☎01632-5-1321

●笑って踊れる♪ジャズトリオ「H ZETTRIO」

○名寄公演
日時：平成29年9月17日(日) 17:00開演(16:30開場)
会場：名寄市民文化センター(名寄市西13条南4丁目2番地)
入場料：一般3,500円 学生2,000円
問い合わせ：なよろ舞台芸術劇場実行委員会 ☎01654-3-3333

○由仁公演
日時：平成29年9月18日(月・祝) 18:30開演(17:30開場)
会場：由仁町文化交流館(由仁町東栄87-1)
入場料：一般3,500円 学生2,000円
問い合わせ：由仁町文化交流館事業実行委員会 ☎0123-83-2355

●オープンガク堂café

○中札内公演
日時：平成29年9月8日(金) 18:00開演(17:30開場)
会場：9月9日(土) 13:30開演(13:00開場)
中札内村文化創造センター(中札内村東4条南6丁目1-3)
入場料：1,000円
問い合わせ：オープンガクなかさつない制作委員会
☎090-5222-7020(金澤)

○浦幌公演
日時：平成29年9月10日(日) 13:30開演(13:00開場)
会場：浦幌町コスミックホール(浦幌町本町100)
入場料：1,000円
問い合わせ：オープンガクうらほろ制作委員会 ☎015-576-4567

●北海道で江戸噺2017

○名寄(風連)公演
日時：平成29年10月7日(土) 15:00開演(14:30開場)
会場：ふうれん地域交流センター(名寄市風連町本町62-2)
入場料：1,000円
問い合わせ：風っ子プロジェクト ☎01655-3-2077(風連商工会)

○美唄公演
日時：平成29年10月8日(日) 14:00開演(13:30開場)
会場：美唄市民会館(美唄市西4条南1丁目4-2)
入場料：1,000円
問い合わせ：NPO法人美唄市文化協会 ☎0126-63-2185